

# 会 議 録

## 1 会議名

平成28年度第7回三郷区地域協議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 平成28年度地域活動支援事業の完了について（公開）
- (2) 南部まちづくりセンターの移転について（公開）
- (3) 地域活動支援事業募集要項及び審査・採択の基本的なルールについて（公開）
- (4) 自主的審議事項「三郷区における高齢者支援の取組について」（公開）

## 3 開催日時

平成29年1月24日（火）午後6時27分から午後7時21分まで

## 4 開催場所

三郷地区公民館 集会室

## 5 傍聴人の数

3人

## 6 非公開の理由

—

## 7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員：山口典夫（会長）、保坂裕子（副会長）、池内幸雄、伊藤善一、尾崎祐三、加藤与三郎、佐藤 功、二野 浩、保坂真由美、山田宏文、横尾彰平
- ・事務局：南部まちづくりセンター 佐藤センター長、榎島係長、小林主事

## 8 発言の内容（要旨）

### 【小林主事】

- ・竹内副会長を除く11名の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・同条例第8条第1項の規定により、議長は山口会長が務めることを報告

### 【山口会長】

- ・会議の開会を宣言
- ・会議録の確認：伊藤委員、尾崎委員に依頼  
次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

### 【佐藤センター長】

資料により説明。

【山口会長】

質疑を求めるがなし。

—次第3報告（1）平成28年度地域活動支援事業の完了について—

【山口会長】

次第3報告（1）「平成28年度地域活動支援事業の完了について」、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

資料No.1により説明。

なお、地域活動支援事業の実績報告書の提出があると、できるだけ早く地域協議会に実績報告をしている。今回報告した事業は、事業終了からかなり時間が経っている。これは、事務局から再三の提出依頼はしたが、団体からの実績報告の提出が遅かったためである。

【山口会長】

事務局の説明について、質疑を求めるがなし。

—次第3報告（2）南部まちづくりセンターの移転について—

【山口会長】

次第3報告（2）「南部まちづくりセンターの移転について」、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

現在、南部まちづくりセンターがある女性サポートセンター及び高田地区公民館は、建設中の（仮称）厚生産業会館に機能を移し、現在の施設は使用できなくなるため、南部まちづくりセンターもこの施設から出なければならない。

移転先の条件。

- ・センター所管の高田区、金谷区、三郷区、和田区のいずれかにあること
- ・既存の公共施設で、十分なスペースがあり、設置目的に沿う施設であること
- ・所管する4区の住民が、来所しやすい場所であること
- ・来所者用の駐車場が確保できること

・可能であれば施設内で、いずれかの地域協議会の会議が開催できること

ある程度条件を満たす「上越市福祉交流プラザ」に、センターを移転する予定。

福祉交流プラザの設置目的に、「市民が集い、交流する場を提供することにより、市民が互いに支え合いながら、自立した社会生活を営み、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるまちづくりを推進する」とあり、まちづくり活動を支援するまちづくりセンターは、福祉交流プラザの設置目的にも沿う。

今後は、所在地が変わるため、「地域自治区の設置に関する条例」の一部改正と移転先の整備に関する予算を市議会3月定例会に上程予定。

それらの可決後、夏頃に移転したい。

【山口会長】

事務局の説明について、質疑を求める。

【二野委員】

いつ移転か。

【佐藤センター長】

まだはっきり決まっていないが、夏頃を予定している。

【二野委員】

それまでは今までどおりか。

【佐藤センター長】

(仮称)厚生産業会館が9月末頃に開館予定であり、それに合わせて女性サポートセンターが閉鎖するため、その前になる。

【二野委員】

秋頃までということか。

【佐藤センター長】

それよりも少し早く移動したいと思っている。

【二野委員】

分かった。

【山口会長】

情報が入れば、随時協議会等でお知らせする。

一次第4議題(1)地域活動支援事業募集要項及び審査・採択の基本的なルールについて一

**【山口会長】**

次第4議題（1）「地域活動支援事業募集要項及び審査・採択の基本的なルールについて」、事務局に説明を求める。

**【小林主事】**

資料No.2～No.4により説明。

**【山口会長】**

まず資料No.4 募集要項の冒頭部分を「みんな一緒に私たちの三郷地域をもっとよくする『まちづくり活動』の提案を募集します！」と修正することについて、質疑を求めるがなし。このとおり修正することについて採決し、委員全員の賛成により案のとおり修正することに決する。

そのほか、事務局の説明について質疑を求めるがなし。

来年度の地域活動支援事業の募集要項及び審査・採択の基本的なルールについて、事務局の提案のとおり修正することを諮り、委員全員の了承を得る。

— 一次第4議題（2）自主的審議事項「三郷区における高齢者支援の取組について」 —

**【山口会長】**

次第4議題（2）自主的審議事項「三郷区における高齢者支援の取組について」に入る。

前回の会議では、2班に分かれて、各委員の高齢者支援についての考えや思いを話し合った。話し合いの結果については、事務局の方でまとめ、資料にして委員に配った。事務局に説明を求める。

**【小林主事】**

資料No.5により説明。

**【山口会長】**

本日はこの結果をもとに、全体で意見交換を行いたいと思う。資料に出されている意見について、皆さんの意見をお聞かせいただきたいと思う。前回の会議の後に思いついたことや、出た意見を見て思いついたことなど、新しいものでも結構である。意見を求める。

**【尾崎委員】**

A班で、「現在のサロンの内容について、JAの担当者の話を聞きたい。」という意見

があった。JAの担当者に直接まだ聞いてはいないが、先日火曜日に三郷地区公民館にたまたま来た時に、JAの主催で高齢者のサロンを開いており、公民館主事の方に話を聞いた。10数人来ているという話であり、参加者数は曜日によって違い、木曜日は少ない、内容も若干違いうだろうということで、踏み込んだところまでは聞いていない。「生きがいサロン」という名前がよいかは別として、現在の内容について現場の担当者から聞く機会があった方がよいのかなと思う。参加者の関係や、どんなことをやっているのかを聞いて、見て、そして皆さんで討議をした方がよいのかなと感じた。

#### 【山口会長】

今後の取組について、それも1つの方法だろうと思う。第2期の委員では研修を兼ねて意見交換を行ったが、新たな委員で行うのもよいと思っている。

#### 【保坂真由美委員】

漠然としていて、どこから手をつけてよいか分からない状況だと思うため、今行われているものを確認することも必要かと思う。

先般、参加されている方々の声を聞いたところ、60代後半、70代近い方々数人だが、「本当に楽しい。」「足腰が悪くなってきているため自分たちには合っている。」という意見のほか、「高齢者と言われるのは嫌だが、体はついていけないし、脳の活性化も必要。認知症にはなりたくない。サロンに参加すると活性化されるというのもあるので楽しみに来ている。」という意見があった。本当は全員の方から来てもらいたい。ここまで来られないという事情の方もいらっしゃると思うため、それを踏まえた上で、何かできればよい。

#### 【横尾委員】

サロンの話は前々から聞いており、私自身も誘いを受けたことがあるが、何となく足が向かない。来ている方も固定化しており、あまり広がりを見せていないのが現状ではないかと思う。これには、何か問題があるのではないかと思う。

三郷の60代～70代の方は大体が農家の方で、農業は天候に左右される。曜日を限定されると、その日は朝から畑へ行って体操以上に体を使っている、その方が楽しいこともあり、サロンが広がりを見せていないのだと思う。だから、もう少し皆が来られるような中身の検討ができればよいと思う。

出前の体操が各町内を回っているが、それとサロンは別か。

#### 【保坂真由美委員】

別である。

【山口会長】

公民館事業もある。

【横尾委員】

体操は面白いが、サロンはあまり面白くないという意見も聞いたことがある。それは好き嫌いの問題ではなく、皆が集まりにくい何かがあるのではないかという気がする。

その辺をもう少し掘り下げて、例えば場所について、デイホームを活用して一緒にするというのも1つの話だろう。高齢者に限定しないで、もう少し幅を広げ、皆が集まれるものがあればよいと考える。ただ、これをすればこうなるという筋書が見つからない。非常に難しい課題だと思う。

【山口会長】

難問だと私も考えている。さりとて避けて通れない。28区どこにおいても同様だと思う。三郷ばかりではない。だから、どうしたらよいか皆さんと自主的に審議して、この区においてどういう取組がよいか、JAが市から委託を受けて実施しているものでよいか、あるいは違った形がよいか、ということがこれからの話し合いの中で出てくると思うし、まとまるかどうかは今後の課題だと思う。任期の中でまとめればと思う。よいアイデア等があれば、随時、自主的に審議していく。個々に情報収集してほしい。

【二野委員】

いずれにしても、この会場まで来る交通手段である。この近所の方なら来やすいのだろうが。だから来る方が固定されてしまう。ここまでのアクセスをどうお膳立てしてあげるか、ということである。

それから、これからは65歳～74歳が准高齢者、80代までが高齢者、その上が超高齢者と3つに分けるような話になっている。60代後半や70代前半の足腰が強い方は、女性の方も含めて、畑に出ている方が多い。時間帯や曜日などいろいろあるだろうが、その辺の捉え方をよく考えていかないと、つまらないのではないかと。それをどうしていくかだろう。

【山口会長】

三郷独自のやり方もよいだろう。横一線に並ぶ必要はない。よいものを提案して、身についたものはそぎ落としてもよい。それは各々の考えの中の話であり、よい方向に持って行けば。当然、老々サロンのような形になるだろうと思う。今後そうならざるを得ない。

【池内委員】

二野委員もおっしゃっていたが、高齢者というのは一体誰なのか。本当の高齢者は75歳以上だという話もあった。では、誰をターゲットにして高齢者と言うのか。

また高齢者にどの程度介入し、関わればよいか分からない。皆さんそれぞれ、畑に行くなど充実していろいろなことをされているので、それを無理やり「サロンに入って下さい」と言うのも変な話である。

結論の出ない話だった。

#### 【山口会長】

1つのことに縛られないで、柔軟な考えも必要だろうと思う。今後、よいアイデアがあればお互いに話し合っていければと思う。

#### 【伊藤委員】

先ほどの二野委員の話に関連し、この会場まで来る交通手段にも問題があり、それを確保するには市からの委託を受けないとできない。市の委託を受けるのか、全然違う方向に行くのか、時間はかかるがある程度道筋をつけないと、話していても難しいと思う。どちらに行くかを早目に決めないといけないと思った。

#### 【山口会長】

それは今、町内会長連絡協議会の皆さんと私ども委員4名ずつの8名で話し合っている。市から委託を受けてJAが実施しているサロンや健康体操とは別に、こういった高齢者の取組ができるのかを話し合っていければということで、今回協議会の場で意見交換をしている。

諏訪の里づくり協議会の皆さんの話を聞いた研修では、送迎用の車を1台買っており、そうすると交通手段は確保できるが、その運営をどうするかなどいろいろなデメリットもあるだろうと、会長が言っておられた。そういう情報を得ながら、三郷に合った形を掘り下げていけばよいのかなと思っている。今後も話をしていきたいと思うので、是非どういう形がよいか研究してほしい。

#### 【横尾委員】

話を聞いていると、サロン＝体操のように聞こえる。それも1つだと思うが、やはり先ほど話が出たように、ここは農村地帯なので、65歳から75歳くらいまでは畑の大好きな人がたくさんいる。畑の好きな人には、近くで畑を借りて自分の好きなものを作るなど皆で楽しむ雰囲気を作り、そこからサロンに発展する、というのも1つの方法ではないかと思う。

来る人が固定化しているのは、サロンだけを目的に来るためであり、畑などのことに

結びつけて来ている人は少ないと思う。自然と触れ合う楽しみの中に畑が存在しており貴重なものだと思う。そういうものを架け橋としてサロンに来てもらう、というのもよいのではないか。

#### 【山口会長】

それは実施論や方法論である。1つの話としてはよいと思うが、今は総論的なものを話している。どこに落としどころがあるかを決め、その後で各論をどうするかまとめていけば、という気がしている。非常に難しい問題であり、市や議会との関係もある。大きなテーマだと思っている。話し合っていけば、何か見えるだろうと思う。

#### 【佐藤委員】

年配の方々はどのようなことをしたいのか。健康体操やサロンに参加を呼び掛けても、皆さんの意見でもそうだが、固定化して好きな人だけが寄るだけになる。各町内のお年寄りがどういう内容なら参加してみたいのかというものがあれば、進め方も少しはあると思う。

有線等で放送はしているが、我々の町内で話をしたところ、「全然興味がない」、「公民館まで行けない」など、いろいろあった。私も見に行ったが、車で来る方は辰尾のあたりから来ているが、あとはほとんど顔を見せない。歩いて来られる方で固まっている気がする。

三郷区の端から端までの方から、「こういうことがあれば参加してみたい」という案が出てきて、それで集まってもらわないと、あまり意味がないと思う。参加する人は参加するが、参加しない人は全然しない、という感じがするため、どういうものを希望されるのか聞くことが必要かと感じる。

#### 【山口会長】

それは各委員の皆さんが、自分の町内の高齢者の方たちと話した中で、情報を収集してほしい。三郷全体の高齢者の方にアンケートを取るのも1つの手だと思うが、まず自分自身で情報収集をして、地域の方たちはどういうものを希望しているのか、話をしてもよいと思う。

また、自分の隣の人たち、おじいちゃん、おばあちゃんが何をしているか、そういう安心、安全のことも必要だと思う。サロンばかりでなく、見守り的なことも高齢者の支援に含まれるだろうと思うため、そんなことをまとめれば、ということである。今年1年でまとまる問題でもない。そんなことも念頭に置きながら、今後話していきたいと思っている。



【二野委員】

いろいろ話を聞いていると、要するに、ここまで来る魅力があるかないか。やはり中身である。歌が好きな人は、「カラオケだったら来たい」という人もいるだろう。押し付けだけでは駄目だと思う。

【山口会長】

それはまたその時に検討すればよい。

【二野委員】

カラオケもあつたり、お茶飲みをしたり、畑が好きな人がいれば野菜作りの指導ができる人に作り方の指導をお願いして、そこで作ったもので今度は料理方法を教えてもらうなど、織り交ぜていったら人が来るかもしれない。認知症の話ばかりだと興味が続かないのではないか。

【山口会長】

サロンの運営等の話も出たが、それも支援の1つかなと思う。

このことについては今日で終わりではないので、審議していきたいと思う。

—次第5 事務連絡—

【山口会長】

事務局に事務連絡を求める。

【佐藤センター長】

・次回協議会の日程：3月9日（木）三郷地区公民館 集会室 18時30分～

・三郷区地域協議会日より

1月15日号から「地域協議会委員の声」として、委員の地域に対する思いや今後の抱負を順番に掲載している。1月15日号については2名の委員に依頼済。今後も順次寄稿を依頼する。

・ニュースレター「創造行政」配布

【山口会長】

事務局の説明について質疑を求めるがなし。

・会議の閉会を宣言。

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 南部まちづくりセンター

TEL : 0 2 5 - 5 2 2 - 8 8 3 1

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

1 0 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。